

平和学習

平成30年8月9日、今年の平和学習は、校長による講話と、長崎原爆に関するドキュメント映像の視聴という内容で行いました。校長講話では、「戦争への想像力を持ってほしい。DVDの視聴を通じて、映像の中のことがもし、自分の身に起こっていたら、自分はどんな行動をとったろうかということをよく考えてほしい。」「私たちの命は私たちの親が生きていたからここに 있습니다。そのことのありがたさをよく理解して、自分と他人の命を大事に思ってください。」という話がありました。講話の後は、「被爆を語る」というタイトルのDVDを視聴しました。戦争を体験した3名の方の体験談を中心とした映像作品を視聴した後は教室に戻り、感想文を書いて、原爆投下時間の11時2分に合わせて犠牲者に向けて鎮魂の黙祷を捧げました。以下は生徒の感想です。



「今まで戦争についてたくさんの色々な方の経験談を聞いてきたけど、今回ビデオの中で話されていた3人の方の話を聴いて、改めて戦争の恐ろしさやどれだけ嫌だったことがよく分かりました。もう二度と戦争が起らないような平和な世界になってほしいなと思います。」(1年 女子)

「被爆された方の言葉は重みが違うなと思いました。戦争を経験したことがない私たちが、そう遠くない未来に『戦争』、『原爆』を伝えていかないとはいけません。そのためにも日々の中で少しでも『平和』について考えていかなければならないと、改めて思いました。」(2年 女子)

「戦争を体験した人が少なくなっているのだから、このような機会を大切にしないとはいけません。いま、恵まれている環境に感謝をしたいと思います。この状況は当たり前ではないので、感謝をしてここに至るまでのことを忘れないように生活していきたいです。」(3年 男子)

